令和8年度版「学力向上ポートフォリオ（学校版）」【馬宮東小学校】

①拡大	今年度の目標と学力向上策
重点的に育成する資質・能力	・国語では、2年連続で「言葉の特徴や使い方に関する事項」が課題である。R7年度さいたま市学習状況調査「国語の授業の内容はよくわかりますか」の質問の肯定的な回答の割合がどの学年も市平均より低かった。「書くこと」の領域にも課題がみられた。「自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうか」の正答率が低い。「読むこと」の正答率は高い。 ・算数では、「数と計算」領域の他に、「かさの単位」「時刻の求め方」などに課題がみられる。「10%増量の意味を解釈し何倍になっているかを表すことができるかどうか」の正答率が低く、無回答率も高かった。また測定分野の正答率が低い。 ・R7年度さいたま市学習状況調査「主体的対話的で深い学び」の質問分類の肯定的回答がほとんどの項目・学年で市平均より上回っている。しかしその児童の意識が学力向上の結果となって表れているとは言えない。
⇓	
実施する学力向上策【時期・頻度】	・指導と評価の一体化により実態を踏まえた授業を行う。【毎時間】 ・家庭と連携して、学習習慣と生活習慣の形成・見直しを目的とするマミヤンカードの取組を実施する。【年に3回】学年で内容の共有をし、学校全体で、本校の課題を見直し、改善していく。 ・「学びのポイント(じ・し・ゃ・く)」の視点に基づく主体的な学びの授業改善に取り組み、授業研究会を実施する。【年3回】加えて教員一人ひとりが確実に授業改善に取り組み、公開授業を年に2回行う。それぞれの実践で得られた成果と課題を共有する場を設け、研修で学んだことが全職員の明日からの授業改善につながるようにしていく。【年3回】 ・ICT研修を実施し、誰でも実践できるような効果的で深い学びにつながる内容を共有する。【年4回】

⑤	年度末評価	
学力向上策の実施状況	評価(※)	
⇓		
今年度の成果と次年度の課題		

※評価　A 8割以上（達成）　B 6割以上（おおむね達成）　C 6割未満（あと一歩）

②	全国学力・学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	・国語ではA話すこと・聞くことの正答率は高く、B書くことの正答率はとても低い。問題形式では、選択式の問題は県、全国をやや上回るが、記述式は大きく下回る。話や文章の種類とその特徴についての問題、情報を関連付けの仕方や図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使う問題の正答率が特に高い。しかし、比喩や反復の表現の工夫に気付く問題、引用して自分の考えが伝わるように書き方や表し方を工夫する問題の正答率が低い。算数では仁測定はやや高いが、C変化と関係の正答率が低く、B図形でもつまづきが見られる。数を四捨五入して、概数で表す問題の正答率が高い。しかし、立方体の体積の求め方の問題、百分率で表された割合と比較量から基準量を求める問題、単位量当たりの大きさ（混み具合）の問題、異分母の分数の大小を判断してその理由を数や言葉で記述する問題の正答率が著しく低い。無回答率も全体的に高い。国語、算数どちらにおいても記述式の問題の正答率が低い。 ・児童質問では、国語の学習で自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書いていたと肯定的に回答する児童が約9割、自分で学び方を考え、工夫することができていると肯定的に回答した児童が約9割おり、県や全国の平均を上回っている。
⇓	
結果から考えられる児童生徒の実態	・特に算数の思考・判断・表現の力に課題が見られる。国語・算数どちらにおいても、文章からその場面をイメージしたり、問題の意図をくみ取ったりすることが難しい児童が多い。また、自分の考えを書き表す力が弱い傾向が見られる。 ・多くの児童が、自分の考えを工夫して書き表すことができていて、主体的に学習を調整することができていると感じている。 ・児童の自己評価と実際の学力の状況に差がある実態が見られる。

④	さいたま市学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	
⇓	
結果から考えられる児童生徒の実態	

③	中間評価	
学力向上策の実施状況	評価(※)	毎週月曜日の業前時間に漢字ドリルや計算ドリル、プリント、タブレットのドリルパーク等を活用して、反復学習を行うことができた。家庭と連携して、学習習慣と生活習慣の形成・見直しを目的とするマミヤンカードは現在内容を検討中。1学期に指導訪問を実施し、「学びのポイント(じ・し・ゃ・く)」の視点に基づく授業改善を進め、主体的な学びを充実させるきっかけの授業改善研修となった。ICT研修を行い、1学期に行った授業での活用アイデアを共有した。全職員が参加する授業研究は今後3回実施する予定である。
	B	
⇓		
学力向上策の見直し	毎週月曜日の反復学習は継続して行っていく。家庭と連携して、学習習慣と生活習慣の形成・見直しを目的とするマミヤンカードの内容の見直しを進め、今後実施していきたい。指導訪問や学力向上カウンセリングで得られた成果をもとにし、教員間での相互授業観察を2学期以降積極的に実施し、各教員の授業力改善を目指していく。ICT研修で、今年導入されたiPadについて、グーグルクラスルームやキャンバ等を授業で活用するため、研修で学んだことを日々の実践で役立てる。また、学びの指標でのICT活用の数値向上も図っていく。国語のの授業では、物語を読んで要約させる活動を多く取り入れる。	

※評価　A 8割以上（達成）　B 6割以上（おおむね達成）　C 6割未満（あと一歩）